

社会福祉法人八ヶ岳名水会 情報紙

山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@mx5.nns.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/index2.html>

ほし

創刊号 平成 23 年 10 月発行

秋



リレー題字：三井春江さん 絵：奥本 淳さん

特集

八ヶ岳名水会現在形

口座No.10820 5190771

引き続きご支援・ご協力お願い致します。

情報紙「虹いろ」発行に寄せて 「これからの福祉と農業の進め方

社会福祉法人八ヶ岳名水会

理事長 坂本敬新

今年の夏も天候不順で猛暑が続いたかと思うと長雨の為、冷夏。と過ごしにくい日々でした。

この度、当法人では、各事業所がその都度発行してお届けした「機関紙」をどなたにもひとつのもので法人全体のことをお知りいただこうということで「情報紙」に一本化する事といたしました。

名前も新たに「虹いろ」です。どうかこの情報紙に沢山のご意見や、ご感想をお寄せいただきたいと思います。

さて、社会情勢の厳しさの上にこの度の大震災、「今後もいつ、どこで起きても不思議ではない。」と言われることへの不安。同時に福祉情勢においても法律が変わって行くことに対しても、非常に心もとないものを感じます。

そのような中であって、私たちにも利用されている方々にも、皆等しく高齢化はやってくることを考えた時、地

域の中での連携を、ますます密にしていかねばならないと思っております。

私も農業経験を活かしながら、農業と福祉の接点をずっと考えて参りました。今、農業を背負っている人たちが六十代から七十代。二十年経つたらしいたい何人が農業に従事しているだろう、と考えた時、労働も生産も非常に厳しいことが想定されます。

八ヶ岳名水会では既に地域の遊休農地を約五・五町歩ほど借り受け、大豆や野菜などを栽培し、加工しております。農業の専門家である地域の方々や農事組合の方々から手ほどきを受ける中で出来たことです。

出来る事でお互いが担い手となる協同作業は、地域に活力を産み出し、食の安全、地産地消の継続などに大いなる希望が持てるかと確信いたします。

地域力はみんなで作るもの。利用者のみなさんにその一端を担って欲しいものです。

現場プロジェクトチーム「農業活動野原ファーム」が、どのような企画を提起してくれるのか、期待すると共に地域の皆様の引き続きのご指導とご助言をお願いいたします。



北杜市長坂町小荒間にある「三分一湧水」

みんなで創る法人

八ヶ岳名水会

社会福祉法人八ヶ岳名水会

統括施設長 坂本ちづ子

山梨県八ヶ岳南麓に広がる農村地帯。冬の八ヶ岳下ろしの厳しさも夏には爽やかな風となり、秋には豊かな実りの地となります。

私たちの法人八ヶ岳名水会は県北の北杜市、韮崎市の二市からなる、人口約八万人の圏域に、平成五年四月、定員五十名の知的障害者入所更生施設「星の里」を一つ目の事業所としてスタートいたしました。

“何人も平等である”の設立の精神の下、自然と共にこの地域でこの人々と共に生かし、生かされること、また、地域での当たり前の生活を支援していく開かれた活動を目指してまいりました。

平成九年より、入所施設利用者の地域への移行と、圏域在住の子どもから高齢者の方までの「活動と暮らし」「余暇や社会参加」「移動」などの地域支援を事業の柱とし、施設福祉から地域福祉を軸にした生活支援への転換を進めて

まいりました。

平成二十四年四月現在、利用される方、約三百名。十一事業所。職員総数百六十七名で担わせていただいております。

手元にある十九冊の「事業計画書」と十八冊の「事業報告書」には、その時々、その年度に熱い思いや形になったもの、課題が詰まっています。中でも、「社会福祉法人八ヶ岳名水会事業所」の位置を示す案内図と「八ヶ岳名水会・人が人を支えていく仕組みづくりの歴史」（別紙）は、一見、何も変わらないように見えますが、毎年具体的な目標を決め、実現可能となったものが書き加えられてきました。

これを見ると、その年何があったのか、思い出され、感慨もひとしおです。みんなの願いが叶って事業となったものもあれば、他県では出来ているのに山梨では認められなかったものもあり、苦難の末に実現。決して平坦な道ではありませんませんでした。

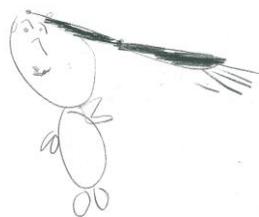
しかし、一つまたひとつ、歴史は積み重なり、皆で喜びを分かち合ううちに、人の層の厚みや地域がやさしく、穏やかになっていくことが実感でき、嬉しさにかわりました。

見守り、声をかけて下さる方、収穫物や品物を届けてくださる方、土地や家を貸して下さる方、ボランティアで来てくださる方、その内に学校の授業や研修会に職員と共に出席する利用者さんも登場。地域の行事にも参加し始めました。さらに、ここを職場として共に働き、暮らしていく中で、人が人を呼び、日々につながって行くことに感謝の念でいっぱいです。

この案内図は、この歴史は、ひとりひとりが声に出し、願いや希望を確実なものにした証です。

これはみんなが力を合わせてここまで創ってきたものです。

八ヶ岳名水会はみんなが創ってきたものです。これからもみんなで力を合わせて創っていく精神は変わりません。みなさんにお届けする情報発信の取り組みも、声のやり取りができるように、法人の新たな歴史の一步としていきます。どうぞ、多くの方のお力添えをお願い申し上げます。



「これ施設長さん!!」と、千葉（在所）のグループホームへ移行していったSさんが描いてくれた似顔（姿）絵です。

特集 八ヶ岳名水会現在形

障がい者自立支援施設

星の里

施設入所支援
生活介護
生活訓練
短期入所



平成5年4月に開所して以来、早くも18年が経過いたしました。

現在、施設全体としては、開所以来定員50名の枠に変動は無く障害のある方を受け

入れております。利用の目的として、家庭生活が破たんされ一時的に利用される方、地域移行を目的として一定期間調整される方、長期間の継続利用を希望される方など多岐にわたっております。近年においては精神科の病院も満床状態にあり、退院促進事業に沿った受け入れや、支援学校の卒業生の受け入れも目立っています。過去においての入所利用は自己の決定権が無いまま措置という形式の上で半永久的な

隔離社会を余儀なくされておりました。言い換えれば完結型の入所利用が通常でした。しかし現在の入所の形態として、契約という制度のもとに利用される方の目的に応じた形の入所利用ができます。人生設計の中で通過型の利用が大半を占めています。そんな中で利用される方の支援方針を決定する個別支援計画も重要性を増しています。作成するにあたって、いままでは施設単独で行っていましたが、現在は利用される方を中心として関係機関と連携、情報交換しながら広域での作業を行っております。

生活面に関しましては、豊約九畳の居室を二名で利用していただいております。住環境として決して許されるものではなく継続課題となっております。利用目的に応じて広い居室を提供できるように、利用者の地域移行に伴う定員の削減が最大のテーマです。日常生活としましては、利用される方の希望を元に余暇活動を積極的に行って、はりのある生活の実現を目指しています。



たまねぎのすだれと薪の束



ゴーヤのカーテン



立派なゴーヤ収穫
できました！！





多機能型障害者自立支援施設
春の陽

春の陽の歴史は、今から十年前の二〇〇一年に星の里から数人の利用者と職員が長坂下条の桑畑を切り開き、ハンドメイドハウス(現・のはらハウス)を建設するところから始まりました。「当時は周りに何もなく、水を汲みに行く仕事の日課だった。」とは、春の陽仁田坂施設長の話です。

現在は春の陽全体で利用者は六十名を数え、活動も多岐に渡ります。(生活介護・就労移行・就労継続B・生活訓練)そのため、県内はもちろん、時には県外からも見学者が訪れます。

このような春の陽の現在の姿を、簡単にですがご説明させて頂きます。



毎年恒例のお田植え

春の陽農場

中央道長坂インターを降りて、交差点を直進し五分ほど走ると左手に見えてくるのが春の陽農場です。

春の陽の拠点である、のはらハウスの周りには様々な種類の野菜を育てている畑があり、道路を挟んで養鶏場と動物小屋があります。少し離れた場所には田んぼが九反(9千㎡)と畑が五反(5千㎡)あり、百本程の梅林もあります。これらは皆、地域の方々から貸していただいている農地です。

春の陽が始まってから現在まで一貫して掲げている目標があります。それは「地域の人・物・情報が循環するための場所でありたい」ということです。

春の陽は、地域にとつても、野菜やお米、卵や薪などを生産・販売・配達する場所でもあり、多くの人や物が集うことで、お互いが必要な情報が手に入る場所でもあるということです。

豆の花食堂

春の陽農場から県道十七号線を挟み向かい側にある建物が豆の花食堂です。以前の日野春J A梨北支所を改装し、食堂と豆腐・おやつ工房を作りました。



雰囲気の良い豆の花の店内

豆の花は「地産地消」「身土不二」を心がけ地域に根付いたお店を目指しています。地域の方々の御協力のおかげで春の陽を利用する人達が生き生きと働ける場所になっていると感謝しております。

地元産のそば、国産大豆の豆腐、春の陽農場でとれた小麦で作ったパンなどを販売していると、お客様に「作り手が見える食品は安心ですね。豆の花の食品には作り手の気持ちが見えますね。」と話されました。これは、何よりもの褒め言葉です。

地域性と時代を踏まえ、利用者のニーズに添いながら成長してきた春の陽ですが、今後も同じ目標で進んでゆくつもりです。

生活介護事業所

菜の花

菜の花は、障がいがある方が通っている通所施設です。地域の障がいのある方やその家族が、地域で生きいきと暮らせるお手伝いを行なっています。

定員三十名の菜の花ですが、今では登録者数三十四名、一日平均約二十名の方が、主に葦崎市、北杜市から通われています。皆さん、とても元気で個性豊かな方々です。菜の花は笑顔と活気に満ち溢れ、賑やかな毎日です。菜の花スタッフは十九名在籍し、それぞれの特技や個性を活かしながら、利用者さんへのサービス向上を目指し「居心地がよい」と思える場を提供できるように日々精進しています。菜の花では普段いろいろな活動を行っています。その中から今回は二つ、活動をご紹介しますと思います。

パックDEリサイクル

牛乳パック等を再利用してハガキや和紙、名刺などを作っています。各ご家庭から日々ご協力をいただいで牛乳パックを集めています。そのパックを利用者さんがハサミで切って、それをスタッフが弱火でコトコト煮ること3時間。煮たパックをよく冷やしてから、今度は利用者さんが器用にビニール部分をはがします。次はそれを乾かすこと数日……。パリッと乾いたパックをみんなですんどんちぎります。ちぎったものを紙すきして乾燥させ、アイロンをかけてやっと完成。沢山の工程を経て手漉き和紙へと大変身します。一枚の和紙にも利用者さんの「頑張り」が凝縮されているのです。みんなで頑張って今日もパックをちぎります。



パックをちぎっています！！

絵画造形教室

食欲の秋、読書の秋、そして……芸術の秋がやって参りましたが、菜の花の利用者さんたちは、いつでも芸術家なんです。ひとたび筆を握れば、独創的で素敵な世界がパッと広がります。どんどん広がるその感性にスタッフも魅了されるほどです。そんな菜の花へ、月に一回絵画造形教室の講師をお招きしています。樫村先生の奇抜なアイデアと「あら、すてきね」「これもいいじゃない」という言葉でメンバー一同さらに芸術パワー発揮です。第二回の展示会に向けて、素敵な作品をたくさん生み出しています。乞うご期待。



自分の手形を作っておめかし♪

これからもどうぞよろしくお願いたします。



生活支援センター

陽だまり

生活支援センター陽だまりでの事業内容としては、主に在宅支援を中心とし、地域での生活の充実と継続可能な形を共に考え、自立支援法の下、様々な事業を展開しています。

居宅介護・重度訪問介護・行動援護事業

介護保険と同様に、ヘルパーが直接自宅に伺って家事的な支援や身体介護などをしたり、社会的に必要な体験や外出支援及び、通院等の支援を行なっています。現在、利用登録者数は約百名、ヘルパースタッフ二十名です。

短期入所事業

在宅生活を送りながらも、その継続のために家庭における様々な事情等で預かる必要がある方や、本人の生活リズムを整える意味合いで利用される方を陽だまり荘やケアハウス大坊などで受け入れています。

共同生活援助(グループホーム)

共同生活介護(ケアホーム)

大人数の入所施設ではなく、地域において当たり前のありふれた生活を望む人たちが、二人から多くて十一人での居住環境の中で生活が送れるよう、北

は北杜市長坂町小荒間から、南は韮崎市龍岡町までの間に十一か所の事業所を設け、十六軒の建物で運営しています。現在利用者数は六十三名です。

韮崎市委託相談支援事業

指定相談支援事業

在宅を始めとして、様々な生活環境で暮らす方々に対して、一人一人に必要な形での相談を受け、本人らしい暮らしを実現していくためにケアプランを作成し、各関係機関との調整などで実現を図っていく役割を持っています。

地域生活支援事業

(移動支援事業・日中一時支援事業)

自立支援法の中では市町村ごとに指定を行ない、身近な所で提供できるサービスとして始まったものです。外出の際の付添いや、家庭の都合によって日中預かることができたりと、在宅生活を継続する上で大切な事業となっています。現在の利用登録者数は約二百名です。

ジョブコーチ

障害者職業センターの委託により、職場定着に向けた直接的な支援を行ない、就職に導く役割を持ちます。現在二名の登録スタッフがいます。

北杜市フルタイム緊急対策支援事業

障がいを持つ北杜市在住の方の緊急支援に二四時間態勢で対応します。夜間、早朝時にも出掛けて行きます。



ケアホームでの様子

障がい者就業・生活支援センター

陽だまり

国の事業である雇用安定事業と県事業である生活支援事業をおこなっているのが、もう一つの陽だまりです。通称「中ポツ」と呼ばれています。

陽だまりでは、生活を安定させることや働くことを希望している障がいのある人に対して、雇用、福祉、教育などの関係機関と連携しながら、就業・生活における自立を図るため、一人一人に合ったプログラムで継続的な支援を行ないます。

また、障がいのある人を雇用している事業所や雇用を考えている事業所への情報提供や支援も行ないます。



震災地支援報告

私たち八ヶ岳名水会は、今般の大震災において、様々な経緯を通じて、法人組織として男女5名の介護職員を被災地支援に送り出すことを決めました（3月24日から期間5泊6日）。その第1回目の支援の様子をご報告いたします。

当日は、朝の5時に山梨を出発。昼過ぎに仙台へ到着してすぐに支援物資を気仙沼まで届けることになりました。気仙沼へは仙台から3時間かかりますが、向こうで待っている人がいると思えば、強行軍でも頑張れるものです。気仙沼では通所施設が避難所になっていて、被災された利用者や職員が避難していました。やっと2日前くらいから支援物資が届き始め、生活が潤ってきたと話す施設長さんが涙を溜めた目で、「皆さんが遠くから来て、物資を届けてくれた気持ちで、何よりも私たちの力になります。私たちは震災にあっ

てとても落胆しているのですが、皆さんのような気持ちに出会えると、自分たちも頑張ろうって思えるのですよ。山梨で何か有ったときには、私も必ず駆けつけます。」と話され、私達の疲れも吹っ飛びました。自分ができることを行い、気持ちを伝える、それは決して自己満足ではなく、気持ちが伝えられる相手があることで成り立つのだということを実感しました。

次の日、私たち女性派遣スタッフ2名は石巻港の近くにある、ひたかみ福祉避難所へ介護の支援に入りました。ひたかみ園は敷地の前に掘り割りがあるために津波がそこでせき止められ、奇跡的に被災を免れた入所施設でした。被災直後は、緊急的に地域の方が避難され、そこへ一般の避難所では暮らすのが困難な、障害を持っている方とその家族が避難して来られ、ひたかみ福祉避難所が始まりました。福祉避難所となつてからは野戦病院のようになっていた日赤石巻病院からも身寄りもない、カルテもない、名前もわからない障害者の方々が移送されて来たそうです。

私たちが介護職員として、避難所の支援に入った時はまだ、明かりはろう

そくと太陽の光。暖房は大きな、がらんとした施設空間に石油ストーブが数台。菓子パンとスープだけの一日二回の食事。当然お風呂は無く、トイレの水は流せない、手洗いも出来ませんでした。毎日、寒い中でストーブの周りに集まって暖を取り、皆さんなんとか暮らしている状況でした。そのような中で、私達は何か楽しくなることをしようと「足湯」や「炊き出し」などを行い、喜んでいただきました。

最終日には、仲良くなったみなさんと写真を撮り、また来ますと言って帰途につきました。

もし、山梨で同じような事があつた時に、手をさし延べてくれる人がたくさんつながるように、お互いに行えることをこんな時だからこそ大切にしていきたいと思います。

八ヶ岳名水会 春の陽

サービス管理責任者兼施設長

仁田坂洋子

（この後、八ヶ岳名水会だけでなく、山梨県全体の取り組みとして、山梨県知的障害者支援協会所属の各法人・施設が交代で宮城県の被災施設へ職員を派遣し九月一杯で一旦終了となる。）

かごのひとかつひと
 駕籠に載る人担ぐ人、

また
 その又草履を作る人

「オース」、S君が車から降りるなり私に向かつて笑顔でハイタッチを求めてきました。「おはよう」、私もタッチで答えます。これがS君と私の朝の挨拶なのです。他の送迎車両も到着し、利用者の皆さんが集まり、ここでの一日が始まります。「社会福祉法人八ヶ岳名水会春の陽」ここが私の職場で、お手伝いを始めて四年目に入りました。初めて経験するこの職場で初めは戸惑いでしたが、多勢の皆さん方と親しくお話をさせていただき、数多くの貴重な体験をすると共に、多くのことを学びました。過日、保護者会の会合にも参加させていたたく機会がありました。利用者さんの中には事情により、グループホームで生活せざるをえない方もいますが、見守る家族や、身内の方々の思いや、愛情は強く心に伝わってきました。又、先日の星の里祭りでは、保護者会の皆さんや、ボランティアの方々等、多数参加して、利用者の皆さん方も演奏や太鼓に合わせて身体を動

かし、普段見られないほどの笑顔でも楽しそうでした。又、恒例のキャンプでは、皆で協力して食事を作ったり、スポーツを楽しんだりしました。このキャンプにはA大学の方々が毎年ボランティアで参加しお手伝いしてくれているとの事でした。さまざまな体験をする中で、この組織は大勢の方々に見守られ、支えられながら活動している事を確信しました。障害を持っている人達が普通の生活ができるような環境作りや、指導する事も、法人としての目的の一つだと思えます。そのためには法人としての努力は勿論、保護者会や、後援会の皆さん、又、ボランティアの方々との協力もかせませせん。私は思います。お互いが肩の力を抜いて、もつと、もつと距離を縮め、話し合い、助け合い、協力し合ってこそ、より目的に近い支援ができるのではないかと。私も障害者です。母も高齢で車椅子生活にて、とある施設に入所しています。先日施設の職員の方が、「日々お世話する中で、常に「ありがとう」の言葉が返ってきます。私たちは、その一言がとても嬉しく励みになります。」と、話してくれました。お互いのこころのふれあい、お互いが感謝す

る気持ちを持つことも必要だと思えます。

「駕籠に載る人、担ぐ人、その又草履を作る人」と言うことわざがあります。乗る人がいてこそ担ぐ人がいて、草履を作る人も必要になります。利用者さんがいて、法人があり、保護者会や後援会の人たちがいて、ボランティアの方々の応援も必要になり、お互いにそれぞれの役割、分担があります。私は駕籠が坂道に差し掛かったとき、後押しする役割でありたいと常に思っています。

春の陽スタッフ 篠原 充

このコラムは八ヶ岳名水会で働く、各事業所の職員が、交代で執筆してゆくコーナーです。

ちよひつひらつち

民間療法をご存知でしょうか。民間に伝わってきた病気の予防や対処法です。昔から風邪や病気を防ぐために食材を選び、食事に取り入れ健康的な生活を、日常管理してきたのです。そんな昔の人の知恵の中には参考になることがたくさんあります。

今回は数ある食材の中で、ビタミンの含まれた食材、そしてここ数年ブームを巻き起こしている生姜に注目します。

風邪予防はビタミン

ビタミンAビタミンC、どちらも良く聞く栄養素です。ビタミンAは粘膜を強くし抵抗力を高めます。レバーや鰻など動物性食品に多く含み、かぼちや人参などの緑黄色野菜のベータカロテンも体内でビタミンAに変わります。またレモンなど柑橘類に多く含まれるビタミンCは、粘膜を保護しウイルスを体内に取り込まないようにします。

万能な生姜

生姜には、全身を温める・風邪に効果的な発汗作用・咳をしずめる・消化

促進・殺菌作用・新陳代謝の向上などの作用があります。日本には平安時代に生姜湯を飲んでいたという記録が残っています。今も昔も生姜は風邪の特效薬だったのです。女性には冷えを予防してダイエットの効果もあると言われ人気の食材です。

生姜を使って☆

今回はグループホームのHさんとYさんが「生姜入りかぼちやサラダ」と「レモン入りジンジャーエール」を作りました。歳が近いということもあり、二人はグループホームでもとても仲良し、そして料理を作ることが好きということで、やる気十分で挑戦しました。

「生姜入りかぼちやサラダ」
作り方はとても簡単、かぼちやサラダにすりおろした生姜を入れるだけ☆（4人分に対して小さじ2程、お好みで調整して下さい。）
「レモン入りジンジャーエール」

こちらもとても簡単、すりおろした生姜・薄く切ったレモン・砂糖・水を煮込んで、それをサイダー



で割るだけです。

Hさんはいつも自分のお弁当を作っているので慣れたものと思いきや、生姜を卸すのは初挑戦、手をすらないように必死に取り組んでいます。



Yさんは、いつも夕食作りのスタッフのお手伝いをしてくれます。



包丁もとても慣れた手つきで、固いかぼちやも楽々と切ってくれました。

無事に2品が完成し味見、かぼちやサラダは生姜がほのかに香り、後味をさっぱり仕上げてくれています。「いつもと味が違う！こっちの方が美味しい。」と二人とも感激です。次にジンジャーエール、いつも買って飲むものより強い生姜の味に少々びっくりしていましたが、自分たちで作ったというのもあり、「美味しい！」と大満足です。他の仲間にもおすそ分けし、美味しいと大絶賛され、二人の自信につながりました。これからもっと腕を磨いてもらいたいと思います。

小荒間にドドンと花火

星の里 夏祭り

毎年楽しみにしている年に一度のビッグイベント、星の里夏祭りが八月七日開催されました。あいにく、雷雨となつてしまいましたが、打ち上げ花火の上がる頃には雨もあがり夜空くり広げられる一大ショーに歓声は挙がりつばなし。「今年の花火はすごいね」の声が聞かれました。屋台では焼きそば、フランクフルト、焼き鳥など、他の法人の方々にも、お菓子、飲み物、ぬいぐるみ等たくさん出店して頂きました。

催し物では、フラダンス、よさこいソーラン、太鼓、盆踊り、ピミエンタさんによる楽器演奏・歌、フォルクローレの調べなど観て聴いて体を動かして楽しめるものが目白押しの日でした。



みんなで輪になり盆踊り



熱く踊れ！よさこいソーラン



秋刀魚はね 大根おろしと 醤油だね

みんなの手 つないで広げ みんなの輪

東北の さくら来い来い みんなでね

鈴虫の 鳴き声聞いて 秋始発・・・

夕立が あつという間に お引越し



※しまちやんのグループホームの利用者さん(男性)で川柳作りが好きな方です。

題字を書いた方の紹介



題字の「虹いろ」は、埼玉で教師をされていた、現在は北杜市須玉町在住の、八ヶ岳名水会応援団の三井春江さんに書いていただきました。ありがとうございます。

表紙絵を描いた方の紹介

表紙絵は、菜の花を利用されている奥本 淳さんが描いてくれました。海や魚と絵を描くのが大好きで、普段からたくさん素敵な絵を描いて、みんなを驚かせてくれます。今回も、淳さんの力作です。ありがとうございます。



「何を描こうかな？」
絵に集中する淳さんです。

編集後記

「虹いろ」は美しい様々な色。それは、多様な人々の繋がり、支えを想起します。また、虹は人と夢とを繋ぐ希望の架け橋です。この世界に生きる全ての人の夢を繋いで欲しいとの願いを込めて、八ヶ岳名水会情報紙の名前を「虹いろ」としました。創刊号のコンセプトは「八ヶ岳名水会現在形」です。歩み続けている人々の現在の形を紙面に収めました。

「虹いろ」は、各事業所発行の広報紙を一本化したものです。今までよりさらに多くの方に、この地域で生活する「チャレンジドピープル」を知っていたら、支障していただく、遠方からでも美しく見える虹のごとくに共感していただこうと、私たちは考えています。振り返り見れば、実に多くの人々の誠実に支えられて、八ヶ岳名水会の今日があります。「虹いろ」は支えて下さる全ての人への感謝の手紙でもあります。どうかこれからも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@mx5.nns.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/index2.html>



社会福祉法人八ヶ岳名水会 後援会

この度、情報紙を通して「八ヶ岳名水会の事業の目的を知っていただき、環境整備を側面から応援し、利用される方々の処遇の向上を図る」を目的に後援会の強化を図ってまいります。

賛助金 賛助会員（個人・団体） 年会費 1口 1,000円 特別会員（法人） 年会費 1口 10,000円

口座 ゆうちょ銀行 記号 10820 番号 5190771 社会福祉法人八ヶ岳名水会後援会

～ご協力いただける方は、上記口座までよろしくお願い申し上げます。～